

ここは、絶対に必要な コミュニティの場所



わきのさわ温泉湯好会 会長
松野 裕而 さん
今年のお盆は1日で100人を超えるお客さんが湯を楽しんだと笑顔。

昭和56年から営業していた脇野沢温泉は、寒い冬には漁で冷えた漁師の体を温め、あるいは、お年寄りがゆっくり体を休める憩いの場として地域のみなさんに愛されてきました。しかし、度重なる故障や温泉の枯渇により、平成27年9月にその営業を休止。

松野さんは、そう語ります。市は、国の「地方創生拠点整備交付金」を活用しての脇野沢温泉復活を図り、地域のみなさんは、自らの手で運営していくことを目指して住民組織「わきのさわ温泉湯好会」を結成しました。

「温泉が復活するかもしれないと聞き、復活するなら何でもいいから私達も頑張ろうということ、湯好会を立ち上げました。自分たちができることは何か、そのために何を準備すれば良いのか、どのように運営していくのか。約30名が一年間何度も集まって話し合いました。そのうち、入浴施設を復活させるだけでなく、そこに『気軽に集い憩える場』『体験交流できる場』としての機能を持たせ、脇野沢に住むみんなの連携が密になる場所にしたという、共通の気持ちが生まれたんです。」

地域のみんながコミュニティセンターに携わることをきっかけに、地域の将来を考え、住み慣れた地域で暮らし続けるために自らが地域を支える活動を行うようになること。コミュニティセンター脇野沢温泉はそのための拠点として、今年春に営業を再開したので。

「昔は、人口も4000人近くいたので賑わっていたんです。温泉が無くなってから、温泉を日々の楽しみにしていた地域みんなは、とても残念がっていました。なんとか復活させて欲しいというのが、脇野沢の人たちの願いだったんです。」わきのさわ温泉湯好会会長の

「温泉が復活するかもしれないと聞き、復活するなら何でもいいから私達も頑張ろうということ、湯好会を立ち上げました。自分たちができることは何か、そのために何を準備すれば良いのか、どのように運営していくのか。約30名が一年間何度も集まって話し合いました。そのうち、入浴施設



①4月のオープン初日には、宮下市長と松野会長が子どもたちとともに初湯を楽しんだ。②ワークショップは、実に16回にもおよんだ。③新しくスタートしたむつ市コミュニティセンター脇野沢温泉。道の駅わきのさわのすぐ近くに立地し、北海道長万部の名湯二股温泉の炭酸カルシウム温泉システムを使った人工温泉を楽しむことができる。

むつ市コミュニティセンター脇野沢温泉
【営業時間】14:00～20:00(水・木 休館日)
【料 金】大人380円 小人150円
市内に住所を有する75歳以上の方110円
※小人は小学生で、未就学児は無料
※市内に住所を有し、身体障害者手帳、愛護手帳、精神障害者保健福祉手帳の交付を受けている方は無料
【コミュニティスペース】
10:00～20:00まで、どなたでも無料で利用可

「こんなことしかできませんが」 が実現する、地域の底力

婦人会、サークル・パン できることから始める大切さ

「何か私たちにできる事と言ったら、これくらいだから。でも、脇野沢を何とか盛り上げたいというのが私たちの気持ち。毎日のように集まって頑張りますよ。ここに来る人たちが喜んでくれればうれしいですね。」と話すのは、むつ市脇野沢地区連合婦人会会長の山崎輝美子さん。

利用者が楽しんで時を過ごすだけでなく、地域のみなさんの連携を深める場としても、うまく機能しています。



④午前10時のコミュニティスペースオープンに合わせて、お総菜を用意する婦人会のみなさんと、⑤サークル・パンのみなさん。お風呂上がりのひとときの「こびり」として、利用者に喜ばれている。⑥炊き込みご飯、天ぷら、焼き魚にお漬け物が、お財布に優しいお値段で並ぶ。⑦隣接するガラスハウスで栽培された野菜で作る「グリーンスムージー」。野菜やハーブを栽培して、利用者に楽しんでもらうのも、地域の人たちのアイデアだ。

私たちが 種をまく理由

つつじヶ丘開拓団 地域を守り続ける地域の手



開拓団が搾ったなたね油。農薬未使用がうれしい。



つつじヶ丘開拓団 団長
松岡 敦子 さん

小中一貫教育に伴う脇野沢小学校の移転により、平成28年4月から校舎とグラウンドが使用されなくなった旧脇野沢小学校。周辺に住む人々の心配は、子どもたちの声が聞こえなくなると地域の元氣も無くなるのではないかとということでした。

「草がぼうぼうと生えてくると気持ちも沈んでくるから何か植えましょうと、菜の花を植えることにしました。グラウンドを畑に耕して、ちゃんと育つかって横浜町まで勉強しに行った人もいたんですよ。」そう話すのは、つつじヶ丘開拓団団長の松岡敦子さん。

この地区から子どもたちがいなくなったらどうなるか、自分たちができることは何か話し合ったため、市が開いた「ご近所知恵だし会議」で、お互いに地域の将来像を語り合いました。

その中で設立されたつつじヶ丘



①つつじヶ丘開拓団の団員。毎月1回、草刈りなどのために集まり活動している。②グラウンドにはポピーの花も植える。取材時は、来年に向けた種の採取が最盛期。③種まきの輪は、団員以外の地域の人にも少しずつ広がっている。④グラウンド一面に咲く菜の花。日の光を浴びたその花は、脇野沢の明るい未来を思わせる。

開拓団は、地域の人々を中心に約40名の会員が会費を出し合って種を購入し、毎月草刈りをして、旧脇野沢小学校の周りを元氣にすることを目的に活動しています。

「草刈りしたり種を摘み取ったりと作業をしていたら近くの人から『いつも花が咲いて綺麗だなんて見てただけで、見てるだけじゃ悪いから』って手伝いに来てくれたんです。他にも種まきボランティアしませんかと小学校に呼びかけたら、家族5人で手伝いに来てくれたりと、少しずつ輪が広がっているのがすごく嬉しいんです。」

グラウンドを畑に開拓してから2年。今では、春が来るとグラウンド一面に広がる菜の花畑を楽しむことができるようになりました。さらにその菜の花から油を取り出し菜種油を製油するまで、活動の幅に広がりをみせています。

「若い人にバトンタッチしていただけるように、ゆっくりでいいので絶やさずに繋げていきたいですね。この場所がずっと憩いの場所になってくれれば。」

自分たちの手の届くところから始めることが、長続きの秘訣と話す開拓団のみなさんの活動は着実に地域の元氣につながっています。